



宇都宮商工会議所
会長 築 郁夫

年頭に あたって

明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。

さて、我が国経済は引き続き堅調に推移しておりますが、消費は依然として弱く、原油の高騰やそれに伴う原材料の上昇を始め、サブプライムローン問題に揺れる欧米の景気停滞や中国経済の動向等先行きの不安材料が山積いたしております。

また、地域経済や中小企業においては、いまだ景気回復を実感できず、むしろ地域間・業種間格差が目立つてきているのが実情であります。

今後の商工会議所へのご支援とご協力をお願いいたしますところであります。

昨年、の事業面におきましては、企業の経営革新や創業を積極的に支援する経営サポート体制の強化、中心市街地活性化・観光交流促進の視点から地域産業の振興を図る「ミヤジヤブ・イン」等の継続開催、さらには宇都宮市商店街連盟50周年を記念した「商業祭」に、合併した旧上河内町・河内町が参加して、各商店街の活性化と小売商業の振興を目指したところであります。

現在、当会議所では初めての取り組みとして、総合的な事業の中期計画の策定を急いでおります。

新年度は、この中期事業計画に基づいた中小企業の経営支援や地域と産業の振興、財政基盤・組織体制の充実等に役員・職員と会員が一体となって取り組み、会員を基盤とした地域総合経済団体としての役割をより一層発揮していく所存であります。

さらに、本年はいよいよ地域の中核的金融機関であります足利銀行の受け皿移行が現実のものとなりますので、地域と企業に及ぼす影響等に注視してまいりたいと存じます。

会員の皆様におかれましては、今後とも倍旧のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、皆様にとりまして本年が希望と活力に満ち溢れた年になりますようご祈念申し上げ、新年のごあいさついたします。

謹賀新年

宇都宮商工会議所
役員 議員一同

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|------|-----|-----------------------------|------|--|------|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|
| 会 長 | 築 郁夫 | 副会長 | 北野村 松尾 須野 永沼 小沼 川村 八増 斎藤 大野 | 専任理事 | 徳田 林 廣 増 若 小 仲 田 柴 田 稲 垣 保 坂 井 田 野 澤 栄 一 | 常務理事 | 昭 一 敬 二 男 二 勲 男 夫 孝 男 夫 昭 純 裕 可 介 長 寿 光 夫 弘 史 弘 一 男 夫 理 雄 富 久 夫 子 行 和 明 美 正 弘 次 一 憲 敏 操 男 三 茂 平 晃 昭 正 啓 鶴 正 敏 俊 好 恒 章 宜 正 俊 大 長 寿 川 靜 康 宗 宏 雅 晃 紀 紀 幸 幸 榮 和 光 佳 成 博 久 正 勝 龍 浩 哲 浩 規 泰 昌 | 理事 | 徳 野 田 田 潤 井 林 田 代 田 嶋 垣 原 坂 井 田 野 澤 栄 一 北 村 滝 谷 川 長 谷 木 村 原 田 野 池 藤 中 島 山 邊 木 上 野 沼 里 村 橋 村 喜 川 勝 龍 浩 哲 浩 規 泰 昌 | 議員 | 永 昭 一 敬 二 男 二 勲 男 夫 孝 男 夫 昭 純 裕 可 介 長 寿 光 夫 弘 史 弘 一 男 夫 理 雄 富 久 夫 子 行 和 明 美 正 弘 次 一 憲 敏 操 男 三 茂 平 晃 徳 野 田 田 潤 井 林 田 代 田 嶋 垣 原 坂 井 田 野 澤 栄 一 北 村 滝 谷 川 長 谷 木 村 原 田 野 池 藤 中 島 山 邊 木 上 野 沼 里 村 橋 村 喜 川 勝 龍 浩 哲 浩 規 泰 昌 | 幹事 | 徳 野 田 田 潤 井 林 田 代 田 嶋 垣 原 坂 井 田 野 澤 栄 一 北 村 滝 谷 川 長 谷 木 村 原 田 野 池 藤 中 島 山 邊 木 上 野 沼 里 村 橋 村 喜 川 勝 龍 浩 哲 浩 規 泰 昌 | 庶務 | 徳 野 田 田 潤 井 林 田 代 田 嶋 垣 原 坂 井 田 野 澤 栄 一 北 村 滝 谷 川 長 谷 木 村 原 田 野 池 藤 中 島 山 邊 木 上 野 沼 里 村 橋 村 喜 川 勝 龍 浩 哲 浩 規 泰 昌 | 会計 | 徳 野 田 田 潤 井 林 田 代 田 嶋 垣 原 坂 井 田 野 澤 栄 一 北 村 滝 谷 川 長 谷 木 村 原 田 野 池 藤 中 島 山 邊 木 上 野 沼 里 村 橋 村 喜 川 勝 龍 浩 哲 浩 規 泰 昌 | 監事 | 徳 野 田 田 潤 井 林 田 代 田 嶋 垣 原 坂 井 田 野 澤 栄 一 北 村 滝 谷 川 長 谷 木 村 原 田 野 池 藤 中 島 山 邊 木 上 野 沼 里 村 橋 村 喜 川 勝 龍 浩 哲 浩 規 泰 昌 |
|-----|------|-----|-----------------------------|------|--|------|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|

商工会議所会員の皆様、あけましておめでとうございます。

早いもので、私が知事に就任してから3年余が経過し、任期の仕上げの年を迎えることとなりました。この間、子どもに対する医療費助成制度の拡充を始め、市町村と住民が協働してまちづくりに取り組む「わがまち自慢推進事業」の推進などの各種施策を市町村と連携して進めることができました。

また、昨年は、県民の皆様をはじめ団体、企業等のご理解とご協力のもと、県民が一体となって結婚や子育てを支援する「とちぎ未来クラブ」を設立することができました。

今年は、新しい県庁舎のもとで、栃木県の新たな一歩を踏み出すこととなります

が、職員一同初心に戻り、全力を挙げて県政運営に取り組んで参る決意を新たにいたしました。

私は、本県が今後とも活力を維持し発展していくため、3年目を迎えます総合計画「とちぎ元気プラン」を着実に推進することはもとより、昨年9月に策定した「平成20年度政策経営基本方針」に基づき、「地震等災害への対応」、「地域医療の確保」、「県民の健康づくりの推進」、「看護する家族等への支援」といった緊要な課題に特に力を入れて取り組むなど、事業の選択と集中を図るとともに、さらなる行財政改革を推進することにより、県民利益の最大化に努めてまいります。

さらに、新年度からは「団塊の世代に着目したとちぎの元気づくり」に加え、

「ブランドに着目した誇り輝く」とちぎの「づくり」を重点テーマとし、これまで以上に広い視野と新たな発想に立ち、県民協働による取組を積極的に進めてまいります。

私は、県民の皆様が安心して生活でき、誇りと自信を持つことができる元気で活力ある「とちぎ」の創造に向けて、県民の皆様と手を携え、最大限の努力を傾注して参りたいと考えておりますので、より一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

年の始めに当たり、私の所信を申し上げますとともに、本年が皆様にとって素晴らしい年となりますことをお祈り申し上げます。新年のごあいさついたします。



栃木県知事 福田 富一

新年の ごあいさつ

年頭所感

宇都宮市長 佐藤 栄一

明けましておめでとうございます。皆様には、気持ちも新たに、希望と笑顔で新たな一年のスタートを飾られたこととお喜び申し上げます。

年頭にあたり、皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

私は、本市が、今後とも、ひと・もの・情報が行き交う広域的な拠点性をさらに高め、北関東の中核拠点都市、また、首都圏の発展の一翼を担う都市として確固たる地位を築いていくことが、本市のみならず、周辺自治体も含めた圏域の発展、ひいては栃木県全体の発展に不可欠であると考えております。

昨年は、市町合併により、北関東初の

50万都市となる記念すべき年となるとともに、本市の顔である中心市街地においても「宇都宮城址公園」や「うつのみや表参道スクエア」の完成などにより、まちなかの賑わいが確実に回復するなど、さらなる宇都宮の発展に向けて、より多様な魅力とポテンシャルを高めることができました。

本年は、私が市政をお預かりした4年間の集大成の年であり、また、市民の皆様ごの思いを結集して策定している今後のまちづくりの設計図となる「第5次宇都宮市総合計画」のスタートの年でもあります。こと

たる基礎を固める年にすべく、思いを新たにしているところです。

誰もが夢と希望を持ち、後々の世代にも誇りをもって引き継ぐことができる新しい宇都宮を築くため、「第5次宇都宮市総合計画」のスタートとなる本年を、新たな一歩を力強く踏み出す年として位置づけ、全身全霊で取り組んでまいりたいと考えておりますので、皆様より一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

